

水中の宝石 II “ミズダニを見よう、調べよう”

森本静子

(ひとはく地域研究員 認定 NPO 法人シニア自然大学校研究部水生生物科)

はじめに

ダニは種類が多く、人や作物に寄生して被害を及ぼすもの、生態系の中で分解者として自由生活を送るものなどそこらじゅうにいる。家の中、食べ物にもいるらしいが、私は家の中のダニを見たことがない。実際に見たらおぞましくて、もう平気で暮らしていけそうにない。しかし、同じダニでも水の中にいるダニ、“ミズダニ”は、人に害はないと言われており、色もきれい、動きも面白い、とにかく可愛い。私にとって、まさに水の中の宝石である。多くの人にミズダニに関心を持ってほしいと思う。

水中の宝石 II では

前回の“水中の宝石 I”では顕微鏡下にセットしたシャーレの中のミズダニを見てもらったが見るのも初めて、こんなダニがいることさえ知らなかったと多くの方が関心を持ってくれた。

現在、日本では約 230 種記録されているが、体長は 1mm もないものがほとんどで、関心を持って肉眼では見えにくい。種の違いを調べるというのも、ミズダニは体の作り(図 1)を見ても難しい用語を書かれていてとっつきにくい。

今回の、“水中の宝石 II ミズダニを見よう、調べよう”では、稲田和久氏に、普段、川でよく見るオヨギダニ属、マガリアシダニ属、アオイダニ属、ヒョウタンダニ属、オニナガレダニ属、ナガレダニ属、ヒラタダニ属、カワリアシダニ属、コバンダニ属、タマミズダニ属、ケイリュウダニ属、あとケイリュウダニ属に似ているが今のところ属不明なもの合わせて 12 の属(なかま)のミズダニとその同定のポイントになる部分をイラストに描いていただいた(図 2)。イラストにすることでなかま調べがしやすくなっている。また、ほかの仲間との違いもよくわかる。

なかま調べ

まず、水の中で動き回っているミズダニをスポイドで吸い上げてシャーレにいれる。ミズダニは小さいし、ミジンコなどもいるので、初めは見分けるのが大変だがミズダニは独特の動きかたをするので、慣れれば見分けられるようになる。

次に実体顕微鏡で体の形、皮膚の状態、色、模様をよく見る。できればピンセットの先でそっとひっくり返して腹面がどうなっているかを見るともっと詳しく調べられる。小さいし動きまわるから傷つけないように気を付けながら、なかま調べのイラストにある同定のポイントと見比べる。初めは難しいかもしれないが、見慣れてくるとある程度のなかまがわかるようになり、ルーペでも十分見分けられるようになる。そうなれば、きっとミズダニが面白くなってくることだろう。

謝辞

今回、兵庫陸水生物研究会の稲田和久氏には多くの時間と労力をかけてミズダニのイラストを描いていただきました。心よりお礼申し上げます。ミズダニといっても、ダニはダニ、嫌われ者のダニをこんなに可愛く描いていただいてミズダニ愛好家としては嬉しい限りです。可愛いミズダニのイラストに心惹かれて同好の士が増えることを期待しています。

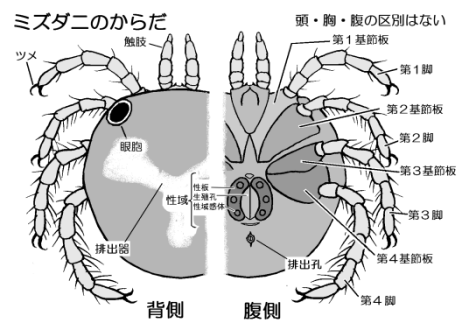


図 1 : ミズダニの体のつくり

背面は球形		背面は柔らかい	
体は球形		ヒョウタン型	
<p>オヨギダニ科 オヨギダニ属</p> <p>よく似たなかまはマガリアシダニ属</p>	<p>アオイダニ科 アオイダニ属</p> <p>よく似たなかまはオヨギダニ属</p>	<p>ナガレダニ科 オニナガレダニ属</p> <p>よく似たなかまはナガレダニ属</p>	<p>ナガレダニ科 ナガレダニ属</p> <p>よく似たなかまはオニナガレダニ属</p>
<p>ヒラタダニ科 ヒラタダニ属</p> <p>形は卵形で、脚は長い</p>	<p>コバンダニ科 カワリアシダニ属</p> <p>形は卵形で、脚は長い</p>	<p>タマミズダニ科 タマミズダニ属</p> <p>形は卵形で、脚は長い</p>	<p>ケイリュウダニ科 ケイリュウダニ属</p> <p>形は卵形で、脚は長い</p>

図 2. ミズダニのなかま：同定ポイント